



第48号 2017年12月1日

テグム奏者でありながら韓国国立
 国楽管弦楽団の総責任者である楽
 長の文形熙(ムン・ヒョンヒ)先
 生にインタビューをしました。文
 先生は去る9月17、18日に行われ
 たチュムパンの発表会に出演され
 ました。

—所属されている国立国楽管弦楽団
 では、伝統音楽をもとにした新し
 い音楽を生み出す試みをされてい
 ますね。

現在、楽団では現代のシナウイ
 を創作する「シナウイプロジェクト

韓国音楽の 線を表現する呼吸

インタビュー／テグム奏者・文形熙

トを進めています。シナウイも
 散調も作られた当時は新しい音楽
 だったわけで、時代ごとに新たな
 音楽が生まれ、それが後に「伝統」
 になるのだと思います。

—新しい音楽を創作しながらも「伝
 統」を掲げるには、そこに連続性
 やルーツを表す必要がありますよ
 ね。それは何だと思えますか？

やはり韓国的な呼吸だと思いま
 す。すべての音楽は呼吸によって
 作られるのですが、私は韓国音楽
 特有の呼吸に美しさを感じます。

チャンダン(長短)韓国伝統音
 楽のリズム)の話をする、クツ
 コリチャンダンはチャンダンのな
 かでも基本中の基本で、韓国的な
 呼吸が最もよく表れているものだ
 と思います。オンモリも特徴的な
 チャンダンですが、これはキリギ
 スタンやウズベキスタンの音楽の
 なかにもあるんですよ。

—韓国の伝統音楽の魅力は何だと
 思いますか？

西洋音楽は様々な音色を重ねて
 完成する和声的なものです。西洋

の絵画も色彩を重ねるのが特徴で
 すよね。一方で、韓国音楽は線で
 表現されます。一つの線(メロディ)
 のなかにカラク(調べ)があります。
 やはり韓国の伝統画も色を重ねる
 というよりは、流れるような線に
 特徴があり、線を見せることを重
 視します。韓国舞踊もやはり「流線」
 の表現が大事です。

—音楽家となるきっかけは何でし
 たか？

音楽が好きで家庭で育ったんで
 す。父が教会でオルガンを弾いた
 り、母も歌が上手で……。なので、
 小学生の頃からピアノやギター、
 声楽など、主に西洋音楽を学んで
 きました。中学生のとき、当時、
 流行っていたサムルノリを始めた
 のが民族音楽の道に進むことにな
 ったきっかけです。その後、国
 楽高等学校に進み、学校の先輩の
 師匠だった李生剛先生(イ・セン

の絵画も色彩を重ねるのが特徴で
 すよね。一方で、韓国音楽は線で
 表現されます。一つの線(メロディ)
 のなかにカラク(調べ)があります。
 やはり韓国の伝統画も色を重ねる
 というよりは、流れるような線に
 特徴があり、線を見せることを重
 視します。韓国舞踊もやはり「流線」
 の表現が大事です。

—音楽家となるきっかけは何でし
 たか？

音楽が好きで家庭で育ったんで
 す。父が教会でオルガンを弾いた
 り、母も歌が上手で……。なので、
 小学生の頃からピアノやギター、
 声楽など、主に西洋音楽を学んで
 きました。中学生のとき、当時、
 流行っていたサムルノリを始めた
 のが民族音楽の道に進むことにな
 ったきっかけです。その後、国
 楽高等学校に進み、学校の先輩の
 師匠だった李生剛先生(イ・セン



ムン・ヒョンヒ

1970年生まれ。韓国国立国楽
 管弦楽団・楽長、重要無形文
 化財45号テグム散調芸能履修
 者、韓国・中央大学兼任教授。

ガン、重要無形文化財45号テグム
 散調芸能保有者)のご自宅に招か
 れる機会に恵まれました。その際
 に先生が私たちのために演奏をし
 てくださいたのですが、それを聴
 いて感銘を受け、テグムを学ぼう
 と決心しました。

大学は中央大学の韓国音楽科に
 進みテグムを専攻しました。また、
 幼い頃から西洋音楽を学んでいた
 ので、大学院の修士課程では指揮
 を専攻しました。いまでも楽団で
 指揮を振ることがあります。

—国立国楽管弦楽団の団員になら
 れた後に高麗大学大学院で人文
 学の分野について学ぼうと思われ
 た理由は何か？

音楽を理論で表現したいと考え
 たのです。「音楽を奏でるだけで
 なく、理論的に整理できる力をつ
 けたい。そして韓国音楽以外の多
 様な文化についても深く知りたい」
 と思ったのが理由です。

—日本にはよくいらつしやるそう
 ですね。

はい。今回のような舞踊公演の
 伴奏やアジアフェスティバルなど
 の出演のためによく来日していま
 す。初めて来たのは私が学生だつ
 た1995年で、その際は鹿児島
 でホームステイをしました。当時
 から日本の魅力にすっかりはまっ
 てしまったのですが、特に劇場の
 システムが素晴らしいですね。

きちんと整備されていて学ぶべき
 点が多く、スタッフの方々もマナー
 もよくて。

—韓国のアーティストのなかには、
 韓国に比べて日本の観客は反応が
 薄くて慣れないとおっしゃる方も
 います。

それはあまり気にならないです。
 日本以外にも欧米などで公演する
 こともありませんが、その土地によつ
 て観客の反応は様々ですから。心
 のこもっていない手拍子よりは、
 公演を真剣に見て共感してくださ
 る姿がむしろ心に響くものです。

「受容の心」が私のアーティストと
 しての哲学なのですが、日本には
 それが根付いていると感じていま
 す。日本の方々も他国である韓国
 の文化を受け入れて学ぼうとする
 姿。つまり、韓国文化を受容し、
 それを習得しようとする姿に感心
 します。

—最後に今回の来日のご感想をお
 願ひします。

今回の発表会に出演されたのは
 プロの舞踊家ではなく、本業が別
 にあつたり家庭の主婦をしている
 方々だと伺っています。忙しい生
 活の日々を送りながらも、文化を
 学び享受しようという心がけは素
 晴らしいことだと思います。そう
 いった姿はとても美しく、見てい
 て楽しかったです。

本日に日本が好きなので、来日
 公演は毎回、楽しみにしています。
 今回は特にチュムパンの方々がよ
 くしてくださったので、良い時間
 を過ごせました。ありがとうございました。

(聞き手：金香清 キム・ヒャンチョ
 ン)

発表会「舞会」感想

乃久里 述

9月17、18日に行われた発表会「舞会(まいのかい)」の鑑賞レポートです。乃久里さんは、18日の公演に足を運んでくださいました。

客席に足を踏み入れた時、まず「よい空間だな」と感じた。舞台はただまっさらで、客席のざわめきとは一線を画す静けさをたたえていた。

友人からの誘いで軽い気持ちのまま足を踏み入れた私は、その舞台の存在感を前に居住まいを正し席に着いたのだった。本格的な朝鮮半島の伝統舞踊を鑑賞するのはそれこそ何年ぶりだったろう。

このような場で自分のことを話し始めるのが引けるが、私は



体を動かすのが得意ではなく、背中もいつも丸く前に傾いている。意識して背筋をまっすぐに保とうとしても、気が緩めばすぐに元の猫背に戻っている。

日常的な作業に支障があるわけではないが、身体に意識が行き渡っておらず統御ができていない。なので、舞台上上がる方々からすれば極めてばかばかしく響くかもしれないが、最初の演目「五方舞」のために舞手の四人が姿を現した時点で、私の中ではまず「姿勢がとても美しいなあ」という感慨が起きていた。

体幹から行き届く意識

「五方舞」で表現されるのは五行説に則った世界観とその思想だという。だが、その意義や意味をその都度頭で意識して身体を動かしていたら、恐らく舞としての動きは間に合わない。色鮮やかな衣装を美しく見せる動きも、幾何学的な四人の並びや広がりも、意識が身体に行き渡っているからこそ叶うものだ。体幹から末端の指

先まで行き届いた意識。逐一自覚しなくとも細やかに統御される身体。それが備わらなければ、また身体が思想を体得していなければ舞台上に世界は生まれない。

舞手の方々が抑制された動きで舞台の位相を変えていくたびに、自分とは遠いところにある表現の力を目の当たりにした気持ちになつていった。

「身体の統御」の極致

次の「男舞」における身体表現は、まっさらな舞台の上で風景を描き出す窓のようであったと思う。思想や理念の表現である五方舞とはまた違って、舞が情景を描き出し、その中で更に遊ぶ身体がある。観客の想像力を遠景に近景に喚起する楽しい舞台だった。

「ミンサルプリ」にいたっては、静かに削ぎ落とされた動きの中に鋭く研いだ緊張感が、前述した「身体の統御」の極致に思われる。極限まで抑制された動きの奥からやってくる情緒の力を前にして圧倒されるものがあつた。

身体に行き渡った意識はまた、抑制ではなく解放の方向にも作用するのだなと思わせてくれたのが「鶴舞」と「ブクチュム」だった。そこにある躍動もまた、チャンダンのリズムを掴み、思うがままに



身体を動かさせてこそ得られるものなのだ、カーテンコール後にもたらされた充足感と共に考えていた。

また、「剣舞」「サルプリ」「僧舞」の小道具たちも身体の延長線上にあつた。流れるように動く袖や布、軽やかに音を響かせる剣が舞台上で意のままに動くさまは、大変に美しかった。空気をはらみ翻るチマの裾も然りだ。

再発見に満ちた一日

あの日、私が舞台の上で見たものは全て、自分とはとても遠いところに存在する身体のかたちだったと思う。

朝鮮のそれぞれの民族舞踊の美しさと意味を宿したそれは、朝鮮

半島にルーツを持つ私にとつて親しみのあるものでありながら、私からかけ離れたところに存在し、それでいてとても大切なものなのだと思う。

そのような私の感慨をさておいても、静と動を併せ持ち、統御された身体で情緒と情念を表現した舞台は非常に楽しいものだった。それらに至近距離で触れることができたあの日は、自分にとつて新しい発見と、普段遠ざかっていたものの再発見に満ちた良い一日だったと思う。素敵な舞台にお誘いいただきありがとうございました。そして、私自身は依然として猫背が直せずにいる。

(のぐり のべる)

秘すれば花



李 起 昇

「秘すれば花なり、秘せずば花なるべからず」これは世阿弥の風姿花伝にある言葉です。舞台に立つ人というのは、基本的には、みな目立ちたがり屋だろうと思います。しかし問題は、どう目立つかと言ふ点にあります。上手な人を見ていると、どうも「目立たないことにより目立つ」という方法を用いているように思います。

しかしそういう踊り方は、韓国では殆ど評価されないだろうと思います。韓国の舞台を見たことがある人なら分かると思いますが、韓国では、「目立つてなんぼ」の踊りのオンパレードです。サルプリアを「見得を切り」「客を見つめ続け」「色気むんむん」で踊られたのでは興ざめもいところですが、韓国ではそうやって目立とうとします。

もちろんミンサルプリアの趙甲女さんや、何人かは「目立たないで目立つ」踊りの名手です。あるいは、でした（亡くなられた方も多くいます）。韓国にもそういう技を持っている人はいるのですが、しかし多数派は、「目立つてなんぼ」の踊

りを踊っています。

北朝鮮の踊りもまた、「目立つてなんぼ」の踊りです。そこでは身体能力の高さが求められます。そして不必要と思われるぐらい、肩で踊ります。肩の上げ下げ（オツケチュムといいますが）が不自然なのです。

「目立つてなんぼ」が「目立たない目立ち方」よりも下位にあると私が判断するのは、それが印象の深さと持続時間の長さの点で劣っている、と思うからです。北朝鮮の踊りでは、舞台で見得を切ります。彼女たちは、観客をキッと睨むことでこれをします。この所作により観客をはつとさせ、その瞬間、驚かすことはできますが、劇場を出た客の心に、何日も、感動を残すことはできません。観客を睨んだり、見得を切る所作は、「オス」には有効かも知れませんが。しかし「男」や「人」には響かないだろうと思います。メスの色気はオスにしか作用しません。存在としての色気を表現できなければ、多くの観客に感動を残すことはで

きないだろうと思います。

私は色気にはいくつかの種類があると思っています。大きくは性的な色気と、存在としての色気です。性的な色気は、若い内しか出すことができません。存在の色気は、存在がある限り続きます。万物は陰と陽の合体で成り立っています。ですから私は、石ころにも色気があると思っています。

目立つてなんぼの踊りは、性的な色気を発します。「目立たない目立ち方」は存在そのものが放つ色気です。それは客の深層に訴えかけます。それゆえ人の記憶に長く残るのです。これは上手な人でないとできません。しかし上手な人はそうしようと思つてそうしているのではなく、結果としてそうなつたという踊りを踊っているように感じます。

舞台には踊りの神さまがいます。恨みを飲んで死んでいった多くのさまよえる魂も、この世に出てこようとしている精霊もいます。上手な人はその者たちに、踊りを捧げ、魂鎮（たましず）めをしているように見えます。その光景をたまたまその場に居合わせた観客が見ているだけというのが実態ではなかるうかと感じます。そのような踊りは、見た人には魂振（たまふり）となります。

目立つことを目標とするか、結

果とするか、これは重要な点です。目立とう、という意識が強いと、却つて目立つことができず、あざとくなつてしまいます。目立つてなんぼの踊り方は、うまく見せようとする努力が、却つて鼻についでしまいます。

風と踊り、魂と語らう。たまたまそんな姿を身近で見た人が、うまくつたといい、感動したという、それが「秘すれば花」であろうと思います。感動させようと思つて踊つたわけではなく、うまくいふわれようとして踊つたわけではありません。結果として、観客がそういつていると云うだけのことで

しかし多くの人は、うまくなるうとして踊り、褒められようとして踊ります。最初の内は勿論それでいいのですが、更に上を目指すなら、それは目的ではなく結果だと言ふことに、いち早く気がつく必要があると思います。

世阿弥の言葉に、「下手が上手と思ひ、上手が上手」と思ふのが本当の上手だ、というのがあります。「下手が上手と思ひ、上手が下手と思ふ」のは、本当の上手ではありません。舞台の上で見得を切り、目立つてなんぼの踊りを踊るのは、「下手が上手と思ふ」レベルだろうと思います。

発表会「舞会」について、あの

踊りはお金を取れる踊りだと思ふ、といった人がいました。あるいはそうかも知れません。しかし私が思うに、客は値段以上のものを見て得をしたと思つたなら、次も来ようと思ふけれど、しかし値段程度、あるいは、値段ほどではないと思つたなら、次からは来ないのではないのでしょうか。次も来て貰える値段設定と、次は来ない値段設定と、どちらが妥当でしょうか？

「秘せずば花なるべからず」です。自分だけ目立ち、自分だけ利益を得るような振る舞いは、長続きしません。これは舞踊に限らず全てに言えることだろうと思います。

誰もが、うまくなりたいと思つて始めるのですが、中級の壁を越えようとするならば「うまくなる」が、結果となるような境地を目指さなければならぬと感じます。そうすれば目立たないで目立つようになるのではないのでしょうか。（イ・キスン…編集委員）



韓国舞踊、それで？

内田 麻里奈



何年か前のこと、通勤途中の駅とあるカルチャースクールのチラシを手に入れました。ヨガやフラダンスなど、いろんな大人向けの習い事が今ならお得な価格で体験できます、というような内容でした。そこに写真と共に載っていた「韓国舞踊」の欄を見て、何じやこりや？ 分からないから体験してみよう！ と思ったのがコトの始まりです。予備知識ゼロゼロの体験ですから、きれいな衣装の模範演技をほおくと眺め（でもポイントは全くつかめず）、手を横に広げて前に数歩、後ろに数歩、それで？ という感じでおしまいでした。おしまいでしたが、それで？ の続きがもう少し知りたくてそのま

ま今日に至っているような気がします。ひとつもドラマチックな出会いではないですが、不思議と今日もまだまだやめたくなくなる気配があります。気が済んだらやめればいい、なんて思っても踊れば嬉しくて楽しくてついまた、それで？ なのです。

出合いは淡泊だったかもしれないが、韓国舞踊ならではの人を掴んで離さない魅力はたくさんあります。ところがその魅力の大半が同時に困った部分でもあるのです。下世話なところから言えば、衣装の露出度がとても低いので、安心感バツグンです。しかしそんな安全服にも関わらず、踊ると鏡の中に自分の性格というか本性と

うかが映ってしまっています。これは衣装で隠している二の腕の足だの○※○☆だのよりもまずい！ もう少しまじめなところでは、先生の踊りがとても自然なものです。お手本を見ると、あれ、自分は何をぶざまに力んでるんだろう？ 自然に、普通にすればこんなに素敵なのに？ と毎度まいど騙されてしまいます。その自然さに到達するまでがどれほど遠いことか。トホホな魅力です。

韓国舞踊それでそれで？ と新たな景色を見たくて今日に至っていますが、それは高みにあるであろう山頂をまっしぐらに目指す登山のような進み方ではなく、時折ふつと幻影を見せる霧の中を気持ちよく漂っている気分です（足は確実に登山なみの疲労ですが）。伝統舞踊は、私の前にたくさんの方が同じ音を、同じ動きを、同じ息を辿ったのでしようが、みんな何を感じてどんな気持ちだったんだろう。そもそも誰がこんなおもしろいことを考えついたんだろう。どんな人がどんな人生の中で踊ってきたんだろう。思いを馳せるのは個人の内面世界ですが、孤独なだけではなく広い共有の世界でもあります。踊りの美しい景色を見せて下さる先生、そして教室のみなさんとその世界を、踊っていられる今という時間を、共有させていただけることをいつもとてもありがたいと思っています。

(う)ちだ・まりな…木曜教室)

活動報告

◎2017年8月18～20日(金～日)
金美善先生 ミンサルプリ舞
ワークショップ
韓国・ソウル

◎2017年9月11日
大韓老人会 敬老の宴
演目: 剣舞、男舞、長鼓舞
出演: 初級、中級
場所: 水道橋 韓国YMCA

◎2017年9月17～18日(日～月・祝)
趙寿玉チュムパンの会 発表会
東京・杉並区 座・高門寺2

◎2017年9月22日(金)
日韓伝統芸術公演「流」出演
僧舞 趙寿玉
東京: 渋谷区文化総合センター大和田
伝承ホール

◎2017年10月19～20日(木～金)
「いのち、生きる、いのり」Vol.2出演
サルプリ舞、即興舞 趙寿玉
東京: 渋谷 幡ヶ谷アスパシアホール

◎2017年10月21日(土)
韓国青年商工会40周年祝賀会に出演
鶴舞 初級・中級チーム
東京: 目黒 目黒雅叙園

◎2017年11月3日(金・祝)
「滅紫月」
～葉菊の響宴(はぎくのうたげ)～ 出演
春鶯傳、ミンサルプリ 趙寿玉
京都: 法住寺 阿弥陀堂
主催: 法住寺 協力: 韓絃楽 滅紫月

◎2017年11月4日(土)
韓国伝統舞会
剣舞、鶴舞、ミンサルプリ、太鼓舞
初級、中級チーム
主宰: ギャラリー羅山 安曇野市穂高有明8193-3

◎2017年11月19日(日)
早南クラブ高齢者誕生会 出演
東京・新宿 早稲田南町交流館
扇の舞、剣舞、鶴舞、立舞 初級、中級チーム

活動予定

◎2017年12月8日(金)
韓国舞踊公演 昇天舞、サルプリ舞、趙寿玉
東京・中野ゼロホール

◎2017年12月10日(日)
趙寿玉チュムパン おさらい会
新宿・笹竹地域センター
主催: 趙寿玉チュムパン

◎2018年2月9日(金)～14日(水)
キョバンクッコリチュム ワークショップ
講師 金京蘭先生、金美善先生
主催: 趙寿玉チュムパン